



三重県保健環境研究所

# みえ保環研ニュース

私たちは、皆様の健康で安全な暮らしを科学でサポートしています。

第 101 号(2026 年 6 月)

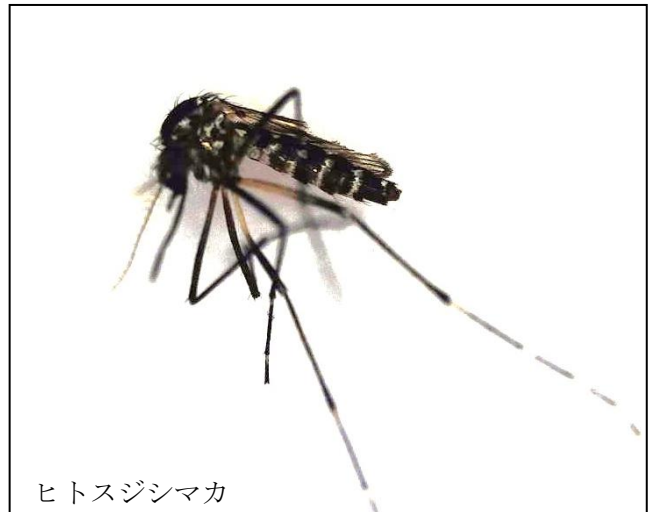
## 感染症を媒介する蚊の調査について

夏に向けて気温が高くなり、蚊を見かける機会が増えてきました。蚊はさまざまな感染症の病原体を運ぶ媒介者として知られています。当研究所では、海外で流行している感染症の病原ウイルスを媒介する蚊の発生状況を把握するため、2026 年 5 月から蚊の調査を開始しました。

### 蚊媒介感染症

蚊媒介感染症として、国内では古くから日本脳炎が知られています。当研究所で毎年実施している感染症流行予測調査では、日本脳炎ウイルス抗体を保有する豚が確認されており、県内にも日本脳炎ウイルスを持った蚊がいることが明らかとなっています。

また、海外では地域によりデング熱やジカ熱、マラリアなどが流行しています。これらの感染症は、蚊が感染者の血を吸ったあとに別の人を刺すことで病原体が体内に入り感染します。発熱や関節痛、発疹などの症状が見られ、重症化すると脳炎や臓器障害を引き起こすこともあります。海外で流行している感染症は、渡航者によって日本国内に持ち込まれる可能性があり、帰国後に国内の蚊を介して感染が広がるリスクもあります。2014 年、東京で海外渡航歴のない方々のデング熱感染が報告され、代々木公園が封鎖されるなど大きな問題となりました。人の移動が増加する中、こうした輸入感染症への注意が必要です。三重県でも、デング熱の東南アジアや南アジア、南米などからの輸入症例が報告されています。



ヒトスジシマカ

三重県におけるデング熱の発生件数

発生年	2014	2015	2016	2017	2018	2019
件数	6	1	3	2	0	2
発生年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
件数	0	0	0	3	2	1

### 蚊の種類

感染症を媒介する蚊にはいくつかの種類があります。国内では、デング熱やジカ熱を媒介するヒトスジシマカ、ウエストナイル熱を媒介するアカイエカ、日本脳炎を媒介するコガタアカイエカなどが代表的です。それぞれ生息環境や活動時間が異なり、都市部の小さな水たまりを好むものや、農村部や森林に多く見られるものもあります。こうした違いが、感染症の発生地域や時期に影響します。また、近年は気候変動の影響により、生息域や発生時期の変化も指摘されています。

### 調査方法

県内で捕獲される蚊の種類や数を調査します。蚊の捕獲方法には、人囀（ひとおとり）

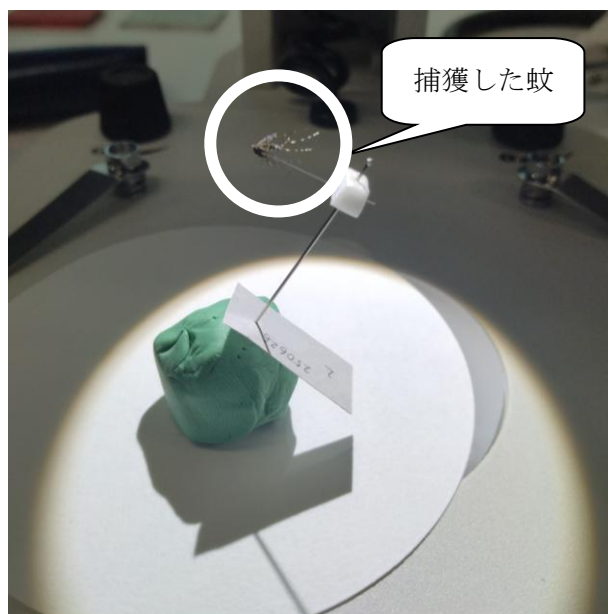
法とトラップ法があります。人囮法は、調査者が捕獲網を持ち、一定時間内に寄ってくる蚊を採集する方法です。トラップ法ではドライアイスを用いて二酸化炭素で蚊を誘引し、捕獲します。蚊以外の虫も捕獲されることがあるため、蚊とそれ以外の虫とを分別したあと、顕微鏡で蚊の翅や体の模様を観察して種類を特定します。



トラップ法: ドライアイスに誘引された蚊をファンで吸い込んで捕獲する



一晩でトラップに捕獲された虫



蚊の形態を顕微鏡で観察して分類する

## 蚊媒介感染症の予防と対策

予防には、まず蚊に刺されないことが重要です。虫よけ剤の使用や長袖の着用、網戸や蚊帳の利用が効果的です。また、水たまりをなくして蚊の発生を防ぐことも大切です。植木鉢の受け皿や屋外の容器などを確認し、日頃から蚊を発生させない環境を整えることが感染症対策につながります。また、海外へお出かけの際は、渡航先の疾病流行情報を確認し、蚊に刺されないように十分注意しましょう。旅行中や帰国後に発熱や体調不良を感じた場合は、速やかに医療機関を受診するようにお願いします。

本調査によって、県内の蚊の発生状況や感染症発生リスクを把握し、効果的な対策につなげていきます。蚊媒介感染症の予防には、一人ひとりの取り組みが重要です。日常生活の中で蚊の発生源を減らす工夫を心がけ、感染症の予防にご協力をお願いします。

—編集委員会から—

みえ保環研ニュースについて、ご意見・ご質問等がございましたら下記までお寄せください。

**三重県保健環境研究所**

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11 TEL 059-329-3800 FAX 059-329-3004

E-メールアドレス [hokan@pref.mie.lg.jp](mailto:hokan@pref.mie.lg.jp) ホームページ <https://www.pref.mie.lg.jp/hokan/hp/index.htm>

三重県感染症情報センターホームページ <https://www.kenkou.pref.mie.jp/>